

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第309回

津田梅子

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年5月30日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

## 環境より

### 学ぶ意志があればいい。

津田 梅子は、日本の教育者。日本における女子教育の先駆者と評価される。女子英学塾創立者。初名はうめで、明治35年に漢字表記に改めて「梅子」とした。

## Column

現在の津田塾大学の前身となる『女子英学塾』を設立した人物であり、華族や平民といった身分や男女の差別がまだ色濃くあった時代に、その区別のない女子教育を志し、男性と協同して対等に力を発揮できる女性の育成を目指していたという話や、津田氏に対して厳しい人や怖い人といったイメージを持つ人もいるかもしれません。私もそのようなイメージを持ちましたが、幼い頃からアメリカの文化や風習を学んだこともあり、おおらかでよく笑う性格だったそうです。そして、そのような性格の女性は当時としては珍しかったようです。時代を感じますね。

学ぶこととは勉強だけに限ったことではありません。人間関係や自分自身の人間形成においても学びが必要です。学校が存在する大きな意味のひとつに、授業だけでなく学校をひとつの社会として考え、その中で自分がどのように進むのかという『人生の勉強』ができるということが挙げられると思います。クラス内のコミュニケーションや部活での仲間との協力や競争もそうです。そういう意味では環境も非常に大切です。しかし環境が整っていても本人に『その気』がないのなら意味がありません。ですから彼女はあくまでも環境“より”と言っているだけで、“学ぶ意志さえあれば環境なんて要らない！”とは言っていません。だからこそ学ぶ意志を持った人が心から学べる環境を用意したくて学校をつくったのでしょう。誰にでもできることではありませんが、彼女からすれば『一番大切なのは学ぶ意志、次はその意志の表現や追求することに最適な環境が大切。そうでなければ限りなく最適に近い環境を求め、そこから最適を目指す。近い環境がないのなら、環境そのものを作ってしまえばいい！』というシンプルなことなのかもしれませんね。きっと彼女の周りの人々にもその“思い”が届いたのだと思います。そして、彼女のような人物が大切にバトンを渡していくことで、現代のような女性の社会進出や活躍が“当たり前なこと”と感ぜられるようになってきたのだと改めて知ることができました。そして、バトンを受け取って大躍進を遂げる女性が今後もどんどん増え、社会全体が活性化していくことでしょう。男性と女性の特性によって、できることに違いはあります。だからこそ『ならでは』というものがあ、それが素晴らしいのだと私は感じています。学ぶ意志や大きな夢を抱く心に男女の区別はありません。全員で大きく羽ばたいていきましょう！